

農業への転身

志摩半島のほぼ中央、リアス式海岸の英虞湾をのぞむ阿児町で、トマト栽培を営む深津孝次さん(59)、志津子さん(55)夫妻。深津さん家族は、21年前、大阪で営んでいた建築関係の仕事を辞め、専業農家として生きる道を選びました。当時、子どもたちは3歳と2歳。「建築の仕事は、確にお金は儲かった。でも、こんなことで一生、過ごしていいのかと疑問を持った」と孝次さん。志津子さんも「田舎で子育てがしなかったし、家族みんなで何かを作りたい生活ができればなあと思っていましたから」と、農業への転身を後押ししたそうです。

「当初は、収入もなく、先が見えない不安から夫婦げんかはつきりでした。でも、そんな毎日に元気を与えてくれたのは子どもたち。幼い2人がハウスの作りを手伝ったり、夜遅くまで仕事に励む孝次さんたちにおにぎりを作ったり差し入れてくれたそうです。転身から2年目に、3人目の子どもが生まれた時も、子守りをしてくれた2人。「繁

忙期は子どもたちも貴重な労働力になり、あのころは家族総出でハウスを支えていました。」深津さん家族にとって、農業への転身は、だれか一人が大黒柱になるのではなく、家族で何かを作り上げたいという志津子さんの願いを現実のものにしました。また、家族がいつもハウスの中でいっしょに過ごせたことも、「サラリーマンだったらできなかった」と志津子さんは感じていました。



長女と次女が就職で家を離れ、3人になった深津家では、今年も、赤いトマトがハウスの中でたわわに実りそうです。

夢を追いかけて

松水啓子さん(54)は、上野市在住。月に五回、家で料理教室を開くとともに、毎週土・日曜日は子供相手の書道塾を開いています。学校を卒業して就いた職業は保育士。10年ほど勤めていましたが、どうしても料理の仕事がしたくてやめたそうです。保育士を続けなくてもよかったのだそうですが、「いつかどこかで近所のお嫁さんたちと料理をしたい」というのが夢だったそうです。保育士をやめて大阪へ通って調理師免許をとり、テナントを借りて10年ほど料理教室をしていましたが、現在は自宅で約30人の規模の料理教室を引き続き開いているそうです。

大家族で育って大家族に嫁いたので、結婚の前後で違和感を感じることはなかったそうです。「元々の家族に2人入ってきただけという感じですね(笑)」。現在は本業の傍ら、「キラキラ」という冊子を編集しているそうです。上

野市女性ネットワーク(上野市の様々な女性団体約35組の連携組織の総称)の代表幹事の一人にも選ばれました。「私は、昔から後ろを振り向くことはしないですよ」という松水さん。「石橋を叩いてたたい渡る人もいるけど行き止まりにぶつかったら、また新しい道を見つけたらいいだけのこと。」お孫さんにも「ケイちゃん」とよばれている松水さん、「母親とはその家の『太陽』、にこにこ笑っているものだ」という哲学のとおり、今日もその笑顔で家の中を明るく照らしています。



家族について考えてみて

この1年間で、いろいろな家族に出会い、あらためて、家族って何だろうという思いが僕の中にわきあがってきました。

実は、最近、いとこのお姉さんが、入籍をしないスタイルで、新しい「家族」を作りました。改姓による事務的手続きの煩わしさや、他人の姓を名乗る違和感から、入籍をしなかったそうです。何より、入籍をしていくから一緒にいるのではなく、一緒にいたいから一緒にいるということが、はつきりするのだろうか。そんな彼女が言っていました。「家族って婚姻や血のつながりではなく、まず個人と個人の結びつきが大切。血縁ではなくても、時には家族の範囲を広げて、友人、知人のグループが家族でもいいと思うな」って。

この1年、僕は、夫婦と子どもというスタイルの家族にお会いしてきました。確かに、家族のスタイルはもつと多様なものかもしれません。気の合う友

オザワゼミ ヨシダ

人同士で暮らしている人もいるでしょう。子どもを持たない選択をした人もいます。

でも、スタイルはどうあれ、僕は取材を通じ、「家族」にどうって、大切なことは何かを教えてもらったような気がします。それは、男性だから仕事、女性だから家事という考えではなく、家族一人ひとりが、個々の生き方を尊重するということです。僕もみなさんから学んだことを生かし、将来は、居心地のいい関係でいられる家族を作りたいです。



夫がすでに定年を迎えている。まもなく夫が定年を迎えようとしている。

お隣同士のAさんとBさん。今日もいつものように井戸端会議が始まりました。

ちょっとBさん、最近、お買い物にお連れ合いと一緒にいるわね。

私は行くこうなんて一言も言っていないのよ。前までは休みの日は、家でごろごろしていたのに...

車で行けるのは楽なだけで、買うものに口出しが多くて邪魔なんだけど。

でも、すごい変化じゃない。何かあったの?

うちの夫、もうすぐ定年なのよ。それでかしら...

うちね、もう随分前に定年退職したでしょ、会社を辞めて変わったわよ。長年勤めた会社を退職して、きつと肩の荷が下りたのね。夫の方から自然に家事を手伝ってくれるようになったのよ。

いたんだと思うの。居場所?そういえば、畑も始めたのよ。野菜を作り始めたんだけど、とにかく作ることに考えてないから、たくさん作り過ぎちゃって、毎日同じ野菜ばかり食べてるわ。それに、平日は私に「水やっつけ」と言うからめんどくさいし。

うちのもしてるわ。土になんか触ったことがなかった人だから、最初は、いつも収穫する前に枯らしてしまってたけど、今では結構出来もいいし、彼も楽しそうだし、いいことだと思ってる。

まあ、うちもいろいろし始めたところだから大目に見てるけど...。そうそう、形の悪いお大根がいっぱいあるのよ、持ってってくれる?

ありがと、喜んで...。でも、ずっとずっと家族のために働いてくれて、やっと隠居できたわけだから、温かく見守ってあげなきゃね。

